

第4期
芸術文化振興ビジョン
資料編

I 令和8年度 主な施策

1 芸術文化を創造・発信する

(1) 芸術文化を担い、育て、つなげる人材を育成する

① 若者世代(若年層)の活動支援

- ・アートで躍動Z世代文化部応援プロジェクト(芸術文化課)
- ・チャレンジ留学～HYOGO若者「海外武者修行」応援プロジェクト～(産業労働部)

② 若手芸術家の発掘・育成

- ・芸術奨励賞の表彰(芸術文化課)
- ・つながる芸術文化プロジェクト(アーティストサロンの運営)(芸術文化課)
- ・「県展」の開催(教育委員会)
- ・ピッコロ演劇学校・舞台技術学校の運営(芸術文化課)

③ 芸術文化活動を支えるプロフェッショナルの確保・育成

- ・ピッコロ舞台技術学校における舞台技術者の育成(芸術文化課)
- ・芸術文化観光専門職大学の運営(総務部)

④ 文化ボランティアの育成・活用

- ・ひょうごボランティア基金助成事業(県民生活部)

(2) 芸術文化の拠点機能を高める

① 芸術文化事業の企画・実施

- ・芸術文化センター創造・公演事業の実施(芸術文化課)
- ・尼崎青少年創造劇場の運営(芸術文化課)
- ・横尾忠則現代美術館の運営(芸術文化課)
- ・県立美術館の運営(教育委員会)
- ・文化会館等の運営(県民生活部)

② 県内外の施設とのネットワークの拡充による利活用の促進

- ・ミュージアムフェアの開催(教育委員会)
- ・ひょうごプレミアム芸術デーを契機とした施設のネットワーク構築(芸術文化課)

③ 芸術文化施設の時代の変化を踏まえたあり方検討と共有

- ・令和7年度芸術文化センターのあり方検討を踏まえた取組推進(芸術文化課)
- ・令和7年度兵庫県立美術館活性化検討を踏まえた取組推進(教育委員会)

④ 芸術文化施設の適切な維持・保全、老朽化対策

- ・芸術文化センターにおけるネーミングライツの導入(芸術文化課)
- ・陶芸美術館の大規模修繕(芸術文化課)

⑤ 旧県民会館におけるギャラリー機能等の検討推進

(3) 芸術文化の発信力を強化する

① ICT等を活用した多彩な芸術文化情報の発信等

- ・芸術文化施設のホームページ・SNSの運営(芸術文化課他)
- ・HYOGO県立ミュージアム広報事業(教育委員会)

② 芸術文化の活動・鑑賞機会等に関する地域偏在の是正

- ・地域で親しむ舞台芸術応援事業(芸術文化課)
- ・兵庫芸術文化センター管弦楽団による県内ホールでの公演の実施(芸術文化課)
- ・県内ホールでの優れた公演の各地域のホール等への配信(芸術文化課)

③ 国際的な芸術文化活動の展開・発信

- ・芸術文化センター創造・公演事業の実施(佐渡裕芸術監督プロデュースオペラ・コンサート等)【再掲】(芸術文化課)

2 芸術文化の“場”を育て拡げる

(1) 地域で多様な“場”を育て拡げる

① 芸術家等が地域へ出向くアウトリーチ活動の推進

- └ ピッコロ劇団による演劇指導・ワークショップ等の開催(芸術文化課)
- └ 兵庫芸術文化センター管弦楽団による小学校等へのアウトリーチ事業(芸術文化課)

② 様々な場所の芸術文化発表の舞台としての活用

- └ 県内芸術家コンサート全県展開(芸術文化課)
- └ 県立美術館における様々な芸術との融合事業(教育委員会)

③ 交流の機会の創出と充実

- └ 県民文化普及事業(ふれあい文化の祭典)の開催(芸術文化課)
- └ 高等学校総合文化祭の開催・支援(教育委員会)

④ 県民の芸術文化活動への支援

- └ 芸術文化に親しむひょうご推進事業(芸術文化課)
- └ 県域文化団体の活動支援事業(芸術文化課)
- └ 県立美術館美術講座の実施(教育委員会)

(2) 芸術文化による共生社会の実現

① 誰もが芸術文化を享受できる環境づくり

- └ ひょうごプレミアム芸術デーの開催(芸術文化課)
- └ バリアフリー改修の実施(エレベータの設置など)(まちづくり部)

② 障害者の芸術文化活動への支援

- └ 障害者芸術「する・みる・ささえる」応援プロジェクト(福祉部)
- └ 兵庫県障害者芸術・文化祭の開催(福祉部)
- └ 障害者および障害者団体に対する施設使用料等の減免措置(全県)
- └ ピッコロシアターにおけるアクセシビリティ公演等の実施(芸術文化課)

③ 高齢者の芸術文化活動への支援

- └ いなみ野学園の運営(県民生活部)
- └ 阪神シニアカレッジの運営(県民生活部)

④ 外国人の芸術文化活動への支援

- └ 在留外国人に向けた情報発信(産業労働部)

(3) 青少年が本物の芸術文化に親しむ

① 青少年が本物の芸術文化に親しむ機会の充実

- └ 県民芸術劇場(学校公演)の開催(芸術文化課)
- └ わくわく・きらきらアート体験事業(芸術文化課)

② 学校教育との連携の推進

- └ 青少年芸術体験事業～わくわくオーケストラ教室～(教育委員会)

③ 複数世代で楽しめる機会の充実

- └ ピッコロ劇団ファミリー公演の開催(芸術文化課)
- └ 兵庫陶芸美術館「夏休み! 1日まるごとこどもの日」の開催(芸術文化課)

④ 文化の担い手の発掘・育成に向けた青少年への魅力発信

- └ 地域づくり芸術文化交流事業支援(東播磨県民局・北播磨県民局)
- └ 伝統文化を通じた青少年の文化力アップ(中播磨県民センター)

3

文化力を高め、地域づくりに活かす

(1) 芸術文化資源の掘り起こしとシビックプライドの醸成

①文化財・伝統芸能等地域資源の保存と活用

- └文化財保存活用大綱に基づく市町の地域計画作成の支援(教育委員会)
- └埋蔵文化財受託調査事業の実施(教育委員会)
- └土木遺産「湊川隧道」の保存・活用事業(神戸県民センター)

②産業遺産や地域の芸術文化遺産の再評価

- └日本遺産の活用促進事業(企画部)
- └「銀の馬車道」魅力UP事業(中播磨県民センター)
- └淡路人形浄瑠璃魅力発信事業(淡路県民局)

③地域内部への芸術文化資源のPR

- └ひょうご考古学まるごとミュージアム事業(教育委員会)

④顕彰ほか様々な機会を捉えた機運醸成

- └兵庫県文化賞等四賞の表彰(芸術文化課)
- └地域文化を考えるシンポジウムの開催(芸術文化課)
- └明石薪能継承事業(まちづくり部)

(2) 地域資源を活用した地域の元気づくりの推進

①地域資源の観光と地域活性化への活用

- └最古の登窯復興と丹波焼の里活性化プロジェクト(芸術文化課)
- └こうべフィールドパビリオンプラスワン(神戸県民センター)
- └西播磨フロンティア祭の開催(西播磨県民局)

②観光資源としての魅力向上に向けた展開方向の充実

- └芸術文化観光専門職大学地域リサーチ&イノベーションセンター事業(総務部)
- └食文化ツーリズムプロジェクト(丹波県民局)

③地域文化資源を活用したまちづくりの推進

- └「ジャズの街 神戸」の推進(神戸県民センター)
- └阪神南地域オープンミュージアム無料開放DAY(阪神南県民センター)
- └専門職大学等と連携した芸術文化振興の推進(但馬県民局)

④芸術家の発想を活用した地場産品等の制作・発売

- └じばさん海外向けプロモーション事業(産業労働部)
- └「ひょうご匠の技」探求事業(教育委員会)

(1) 県民自らが芸術文化を支え、育てる

①芸術家を支え育てる目を持つ観客の育成

- └芸術文化センターオペラ公演の県内巡回公演(芸術文化課)
- └兵庫県生活文化大学(芸術文化課)

②県民等の参画と協働の促進

- └芸術文化施設の運営委員会等への地域住民の参画(芸術文化課)

③企業メセナ、ふるさと寄附、クラウドファンディング等の推進

- └芸術文化センターにおけるネーミングライツの導入〔再掲〕(芸術文化課)
- └(ふるさとひょうご寄附金)芸術文化センター応援プロジェクト(芸術文化課)
- └(ふるさとひょうご寄附金)県立美術館・博物館等応援プロジェクト(教育委員会)

(2) 県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する

①相互連携を支えるプラットフォームの整備

- └兵庫県地域文化団体協議会への支援(芸術文化課)
- └全国的な陶磁ネットワークによる情報共有(芸術文化課)

②国や市町、関係団体との連携体制の確立

- └関西広域連合文化振興事業(芸術文化課)
- └兵庫県と市町の芸術文化担当課による情報交換会(芸術文化課)

③芸術文化振興のための財源の確保

- └国及び関係団体の支援・助成制度の活用(芸術文化課)

4

みんなが支え、総合的に取り組む

Ⅱ 県立の劇場及び登録博物館・指定施設の状況（令和8年3月現在）

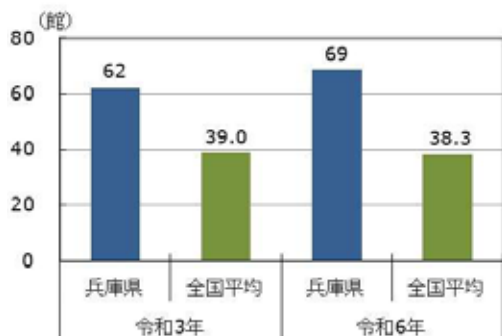
	県立尼崎青少年創造劇場 (ピッコロシアター)	県立芸術文化センター	兵庫陶芸美術館	県立美術館王子分館	
				原田の森 ギャラリー	横尾忠則 現代美術館
	 	 	 	 	 
所在	尼崎市南塚口町	西宮市高松町	丹波篠山市今田町	神戸市灘区原田通	
開館	昭和53年8月 (※令和2年大規模改修)	平成17年10月 (※平成29年大規模改修)	平成17年10月	平成14年10月	平成24年11月
運営	指定管理	指定管理	直営	指定管理	
予算 令和8当初	351百万円	1,638百万円	210百万円	168百万円	
令和6 入館者	110,950人	696,538人	66,460人	198,252人	
おもな 事業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ピッコロ劇団公演の提供 ▶ 劇団員による演劇指導・ワークショップ等の提供 ▶ ピッコロ演劇学校・ピッコロ舞台技術学校の運営 ▶ 演劇など優れた舞台芸術の紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 佐渡芸術監督プロデュースオペラ公演など創造・公演事業の提供 ▶ 兵庫芸術文化センター管弦楽団(PAC)の運営 ▶ 県内の中学一年生を対象に「わくわくオーケストラ教室」を提供 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 丹波焼に関する展覧会の開催及び作品の収蔵・管理 ▶ 丹波焼に関する講座・ワークショップの提供 ▶ 周辺施設等との連携による文化観光資源の価値創出 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 貸しギャラリーの運営 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 横尾作品を中心とした展覧会の開催 ▶ 関連アーカイブ資料の管理・公開・活用
施設の 特色	<ul style="list-style-type: none"> ・全国でも珍しい公立運営の劇団 ・「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」(R6)など多数の受賞歴 ・演劇学校及び舞台技術学校による舞台人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐渡裕芸術監督とPACなどによる多彩で幅広い公演の提供 ・ホール使用率97%、自主事業のチケット販売率90%超など高い実績 ・R6年には入場者900万人を突破 	<ul style="list-style-type: none"> ・丹波焼の名品を常設展示 ・「丹波焼の里」の中核として、地域活性化を推進 ・学社連携事業として、小学校の社会科見学などを受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ・公立ギャラリーとして日本最大級の展示面積 ・90%を超える高い利用率 	<ul style="list-style-type: none"> ・兵庫出身の世界的アーティスト横尾忠則氏の作品を世界最大規模で所蔵
所管	芸術文化課	芸術文化課	芸術文化課	芸術文化課	芸術文化課

	県立兵庫津 ミュージアム	県立美術館	県立人と自然 の博物館	県立歴史博物館	県立考古博物 館	県立考古博物 館（加西分 館）
						
所 在	神戸市兵庫区 中之島	神戸市中央区 脇浜海岸通	三田市弥生が丘	姫路市本町	加古郡播磨町	加西市豊倉町飯森
開 館	令和3年11月 (初代県庁館) 令和4年11月 (ひょうごはじまり館)	平成14年4月	平成4年10月 (※令和4年コレクション 開館)	昭和58年4月 (※令和3～5年大規 模改修)	平成19年10月	平成29年4月
運 営	指定管理	直 営	直 営	直 営	直 営	直 営
予 算 令和8当初	151 百万円	834 百万円	323 百万円	212 百万円	153 百万円	41 百万円
令和6 入館者	170,024 人	435,985 人	569,680 人	56,702 人	98,803 人	18,733 人
おもな 事業	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 常設展・企画展 ▶ 体験イベント ▶ 講演・教育プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 展覧会事業、イベント ▶ 作品の収集・管理・公開・活用 ▶ 教育プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 常設展・企画展、標本資料の収集・管理・公開・活用 ▶ 教育プログラム ▶ 研究・シンクタ 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 展覧会事業、イベント ▶ 資料の収集・管理・研究・公開・活用 ▶ 教育プログラム 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 展覧会事業、イベント ▶ 出土品の収蔵・管理・公開・活用 ▶ 教育プログラム・セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 常設展・企画展、イベント ▶ 資料の収蔵・保管・公開・活用
施設の 特色	<ul style="list-style-type: none"> ・「初代県庁館」と「ひょうごはじまり館」の2施設からなる ・兵庫の歴史や成り立ちについて発信 ・県内の魅力を伝えるイベントを多数実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・前身である旧県立近代美術館の活動実績を発展的に継承した1万点を超えるコレクション ・安藤忠雄設計で建造物としても価値有 	<ul style="list-style-type: none"> ・200万点を超えるコレクション(鳥類は全国2位) ・県立大学自然・環境科学研究所としての研究機関機能を併存 ・セミナー、アウトリーチ事業の積極的実施 ・故・丹下健三氏の設計による建造物 	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路城跡内に立地し、シロトピア記念公園、姫路市立美術館に隣接 ・故・丹下健三氏の設計による建造物 ・歴史文化遺産の未来への継承に注力 	<ul style="list-style-type: none"> ・展示のみならず、発掘や調査研究事業にも注力 ・体験学習メニューが充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・鏡を中心とした中国古代の青銅器等を収蔵し、コレクションは500点余りを数える ・フラワーセンターとの連携事業
所 管	地域振興課	教育委員会 (社会教育課)	教育委員会 (社会教育会)	教育委員会 (文化財課)	教育委員会 (文化財課)	教育委員会 (文化財課)

Ⅲ 兵庫県内の芸術文化施設、文化財の状況

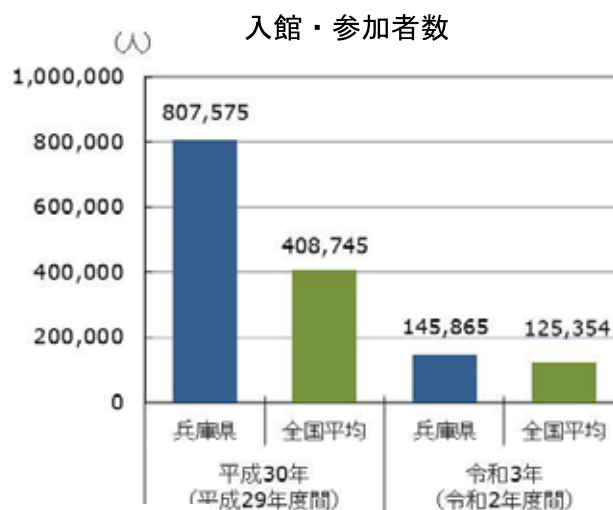
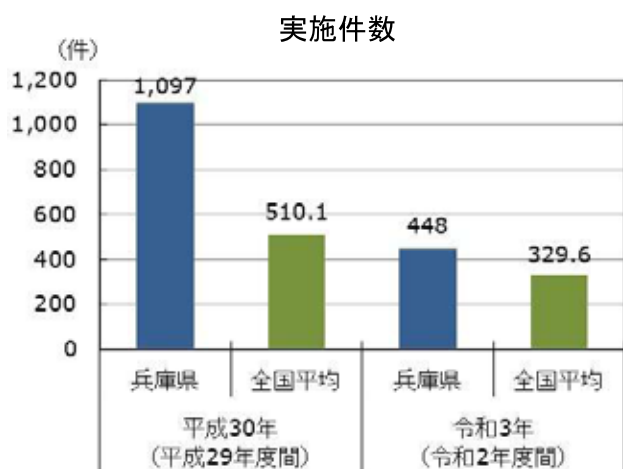
(1) 文化施設、社会教育施設の状況（兵庫県と全国平均）

① 劇場・音楽堂等数



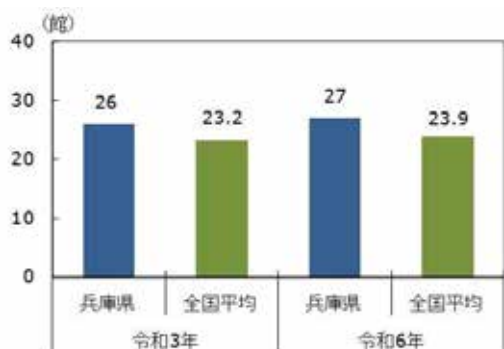
①【出典】文部科学省「令和6年度社会教育調査（中間報告）」
「令和3年度社会教育調査」

② 劇場・音楽堂等における事業（ホールでの舞台芸術・芸術公演）実施状況

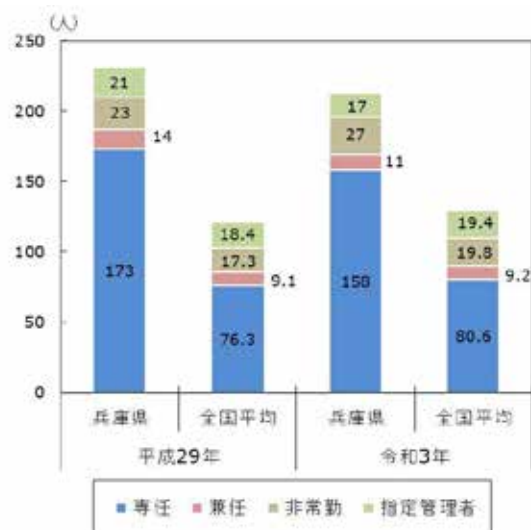


②【出典】文部科学省「令和3年度・平成30年度 社会教育調査」

③ 博物館・美術館数 (登録博物館+博物館相当施設)



④ 博物館の学芸員数 (含む学芸員補・登録博物館+博物館相当施設)



※公・私立の総合博物館・歴史博物館・美術博物館の合計。
科学博物館、野外博物館、動物園、植物園、水族園は含まない。

①【出典】文部科学省「令和6年度社会教育調査（中間報告）」
「令和3年度社会教育調査」

②【出典】文部科学省
「令和3年度・平成30年度 社会教育調査」

(2) 指定・登録文化財の状況

① 国、県及び市町村指定文化財一覧

区分・種別		国指定 (R7.12末現在)	県指定 (R7.12末現在)	市町村指定 (R7.5.1現在)
有形文化財	建造物	113 (11)	213	426
	絵画	94 (2)	52	1,319
	彫刻	107 (1)	117	
	工芸品	67 (2)	43	
	書跡・典籍・古文書	32 (4)	22	-
	考古資料	46 (1)	116	
	歴史資料	1	9	
無形文化財		2 2*	4	3
民俗文化財	有形	7	28	78
	無形	8 14*	41	136
史跡 名勝 天然記念物	史跡	53 (1)	98	227
	名勝	9	22	35
	天然記念物	16	119	252
重要文化的景観		1	-	10
重要伝統的建造物群保存地区		6	-	6
選定保存技術		3	-	1
合計		581 (22)	884	2,493

【出典】国指定/県指定分：兵庫県教育委員会文化財課「文化財の保存と活用（令和8年2月）」

市町村指定分：文化庁ホームページ「都道府県別指定等文化財件数（市町村分）令和7年5月1日現在」

※（ ）内は、国宝・特別史跡で内数。

※ 地域を定めずに指定を受けているコウノトリ、イヌワシ、オオサンショウウオ、ヤマネ、オオワシ、オジロワシ、マガン、コクガン、ヒシクイ、カモシカは含まない。

※ *付の数字は、記録作成の措置を講ずべきものとして選択された無形文化財、無形の民俗文化財の数を示す。

※ 告示日をもって指定・登録件数に数える。

※ 複数の市町に及び、管理者も複数にわたる物件は以下のとおりで、それぞれの市町で1件と数え、総数を調整している。

・国指定 史跡 赤松氏城跡（上郡町・相生市・姫路市）（西播磨の文化財で1件と数えている）

・国指定 名勝・天然記念物 但馬御火浦（新温泉町・香美町）（但馬の名勝と天然記念物それぞれで1件と数えている）

② 国、県登録文化財一覧（令和7年12月末現在）

区分	種別	国登録	県登録
登録有形文化財	建造物	791	26
	民俗	2	-
登録無形民俗文化財		-	11
登録記念物	名勝	5	-
合計		798	37

【出典】兵庫県教育委員会文化財課「文化財の保存と活用（令和8年2月）」

IV 用語解説

	用語	解説	掲載
ア	アーティストインレジデンス	アーティストが一定期間、居住地以外の土地に滞在し、作品の制作やリサーチ活動を行うこと。または、その活動を支援する制度。アーティストは異なる文化や生活からの刺激を受けるとともに、滞在する地域においては魅力の再発見や文化振興などが期待されている。	P. 38
	アートマネジメント	芸術・文化活動と社会をつなぐための業務や方法論のこと。また、アートに関わるマネジメント業務全般を指す用語としても用いられる。具体的には、企画制作、経理や組織管理などの業務、広報活動やマーケティングなどの業務が含まれる。	P. 20
	アウトリーチ	芸術文化分野におけるアウトリーチとは、芸術家や芸術文化施設が、普段、芸術文化に触れる機会の少ない市民に対して、その生活の場に出向き、働きかけを行うことである。「芸術普及活動」「教育普及活動」とも言われる。	P. 27 P. 31 他
	アクセシビリティ公演	視聴覚等に障害を持つ方が舞台芸術を鑑賞するにあたり、必要な支援が用意されている舞台公演のこと。視覚障害者に対しては、開演前の舞台説明・上演中の音声ガイドなど、聴覚障害者に対しては、台本の貸出・字幕表示・手話通訳などが考えられる。	P. 29
	インキュベーション機能	新しい事業やアイデアを育てる支援活動であり、ビジネスや教育、地域活動等において、不足している環境を整え、芽生えた発想やプロジェクトが成長できるように促し、支援する仕組みや取組。芸術文化観光専門職大学の地域リサーチ&イノベーションセンターでは、芸術文化×観光×経営の視点を用いて、地域課題の解決や新規事業の立ち上げ等を支援している。	P. 37
カ	観光地域づくり法人（DMO）	「Destination Management/Marketing Organization」の略語であり、観光地域づくりの司令塔として、地域の多様な関係者を巻き込みつつ、科学的アプローチを取り入れた観光地域づくりを行う舵取り役となる法人のことを言う。	P. 37
	共生社会	年齢や性別、障害の有無等にかかわらず、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会。我が国において、このような社会を目指し積極的に取り組むことが重要な課題となっている。	P. 12 P. 13 他
	クラウドファンディング	群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語であり、不特定多数の人が、通常インターネット経由で、他の人々や組織に財源の提供や協力などを行うことを意味している。日本においても急激に導入が進みつつある。	P. 18 P. 40 他
サ	シビックプライド	都市に対する市民の誇りを指し、愛着だけでなく、都市の構成員として自分自身が関わって地域を良くしていこうとする、当事者意識に基づく自負心のことを言う。なお、本ビジョンにおいては「都市」をより広く捉え、「地域（シビック）プライド」と表記している。	P. 34 P. 40 他
	新庁舎等整備プロジェクト基本構想	阪神・淡路大震災により大きな被害を受けた県庁舎等が、大規模地震に対する安全性基準を満たしておらず、南海トラフ地震等の際に業務継続に支障が生じるおそれがあるため、令和6年8月に「県庁舎のあり方等に関する検討会」を設置し検討を進めてきた結果、令和7年10月に新庁舎・県民交流機能の整備及び元町駅北側地域のにぎわい創出の基本的な方針として当該構想が公表された。	P. 13 P. 23 他
	生活文化	文化芸術基本法では「茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化をいう」と定義されており、例示された分野のほかにも、煎茶・香道・着物（和装・着付け等を含む）・礼法・そろばん（珠算）・素読・俳句（俳諧）・川柳・盆栽等が考えられる。	P. 7 P. 14

	用語	解説	掲載
タ	タイムパフォーマンス (時間対効果)	限られた時間で得られる満足度や効率の高さを表す言葉であり、「タイパ」と略されることが多い。近年、動画や音楽の倍速視聴など、短時間で最大の価値を得る行動を重視する考え方が広がりつつある。	P. 12
	ドローイング	線や形を使って対象やアイデアを表現する描画技法。鉛筆やペンなどで行うスケッチや図面を含み、芸術やデザイン、建築などで構想や構造を視覚化し、思考整理や計画共有に活用される。	P. 24
ナ	ネーミングライツ	公共施設等に企業の社名等を名称として付与する権利で「命名権」とも呼ばれる。施設所有者には命名権販売によって財源を確保できるメリットがあり、命名権を購入する企業にとっては社会貢献や宣伝効果が見込まれる。	P. 16 P. 23 他
ハ	阪神間モダニズム	1900年代から1930年代にかけて阪神間を中心に生まれた、西洋文化の影響を受けた芸術・文化・生活様式。鉄道の発展とともに郊外住宅地が整備され、文化人や芸術家が移り住み、洗練された建築、芸術、生活様式が育まれた。	P. 5 P. 34 他
	VR	「Virtual Reality」の略語で、日本では「仮想現実」とも呼ばれ、コンピュータ技術を用いて現実に近い仮想空間に実際にいるような感覚を得られる技術。専用ゴーグルやセンサーを使い、視覚・聴覚などを没入的に再現し、ゲーム、教育、医療など幅広い分野で活用されている。	P. 25
	フィールドパビリオン	2025年大阪・関西万博に向けて、兵庫五国の個性豊かな地域で人々が主体的に課題解決に取り組み、未来を切り拓いてきた取組をSDGsを体現する取組と捉え、地域の活動の現場（フィールド）をパビリオンに見立て、地域の人々が主体となって発信し、国内外の多くの方々に見て、学び、体験していただく取組。	P. 13 P. 15 他
	部活動の地域展開	少子化や教職員の働き方改革が進む中で、将来にわたり子どもたちがスポーツや文化芸術活動に継続して取り組むことができるよう学校単位で行われてきた部活動を、地域全体で連携して支える仕組みに移行する取組。活動内容の多様化や教員の負担軽減、質の向上等が期待される一方で、指導者や活動場所の確保、安全管理、連携体制の構築等の課題が懸念されている。	P. 13 P. 14 他
	プラットフォーム	周辺よりも高くなった平らな場所をさす英語であるが、施策における基盤の意味でも使われる。文化芸術推進基本計画（平成30年）においては、「関係機関等による対等な立場でのゆるやかな連携・協働を可能にする枠組みとして多様な連携組織等の地域の連携・協働を推進するプラットフォームの形成」が目指されている。	P. 41
	ヘリテージマネージャー	地域に眠る歴史的文化遺産を発見し、保存し、活用し、まちづくりに活かす能力を持った人材。兵庫県が全国に先駆けて平成13年度より人材養成を開始した。	P. 5 P. 15 他
	ポップカルチャー	一般大衆に広く愛好される大衆文化のことであり、一般的にアカデミック分野に属するクラシックな文学や美術、音楽などの文化を表すハイカルチャーと対立する概念である。映画、テレビ、歌謡曲、ポピュラー音楽、大衆小説、大衆演劇などが該当する。	P. 5 P. 37

V 芸術文化振興ビジョン策定の経緯

《策定経過》

日付	内容
令和7年	
6月	芸術文化振興ビジョン検討委員会の設置
8月4日	第1回芸術文化振興ビジョン検討委員会 議題：「第3期ビジョンの評価・検証、改定の方向性の検討」 出席：15名
11月27日	第2回芸術文化振興ビジョン検討委員会 議題：「第4期ビジョン（素案）の検討」 出席：16名
令和8年	
1月8日 ～ 1月28日	パブリック・コメントの実施 意見等の提出件数：23件（8名）
1月30日	第3回芸術文化振興ビジョン検討委員会 議題：「最終案の検討」 出席：16名
3月4日	第374回県議会議決

《芸術文化振興ビジョン検討委員会：16名》

- 設置期間：令和7年6月～令和8年3月
- 名簿(50音順)：

氏名	役職
垣内 恵美子	[委員長] 政策研究大学院大学名誉教授
亀岡 典子	産経新聞社特別客員記者
栗原 良明	阪急電鉄(株)歌劇事業部長
黒川 治	兵庫県議会議員、兵庫県議会文化振興議員連盟会長
古賀 弥生	芸術文化観光専門職大学副学長兼学部長
小林 純一	丹波篠山市立田園ホール専門員
崎谷 明弘	ピアニスト、神戸女学院大学音楽学部准教授
津田 昌太朗	音楽フェス情報サイト「Festival Life」編集長
豊川 聡	神戸新聞社事業局長
西内 一博	兵庫県地域文化団体協議会会長
服部 正	甲南大学文学部教授
林 勇氣	映像作家、追手門学院大学社会学部教授
不動 美里	和歌山県立近代美術館館長
古川 雅一	兵庫県中学校長会会長、神戸市立長峰中学校長
古溝 茂(幽蛙)	書家、兵庫県書作家協会理事長
村上 裕道	前京都橘大学文学部教授、元兵庫県教育委員会事務局参事(文化財担当)

県民生活部文化スポーツ局芸術文化課

〒650-8567 兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

Tel : 078-341-7711 (代表) Fax : 078-362-4260

E-mail : geijutsubunkaka@pref.hyogo.lg.jp

URL : <https://web.pref.hyogo.lg.jp/org/geijutsubunka/ir>

